

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(やすらぎ・いたわり)

## 「不登校・中退の子どもたちの支援者向けポータルサイト『キズキ不登校・中退ナビ』の構築」事業

### 不登校・中退の子どもたちの支援に役立つ情報を社会に発信し、支援の強化と支援者の拡大を目指す

文部科学省の平成28年度の調査によると、小学校から高校までの不登校や中退の児童・生徒は22万人にのぼるという。こうした困難を抱える生徒の学びを支援してきた「NPO法人キズキ」が、悩める子どもたちや保護者、支援者向けのポータルサイトをweb上に開設した。当事者の悩みを少しでも軽くし、支援の参考になるよう、支援事例や体験談などに基づく情報を発信する。



不登校・ひきこもり・中退経験者を個別指導で支援



現在5校ある塾で300人が学ぶ

#### 不登校や中退に関する情報を一元化して発信する仕組みを構築

2011年の設立以来、不登校・中退・引きこもりの生徒のための個別指導塾や、中退の危機にある生徒のサポートなど、若者の学び直しを支援してきた「NPO法人キズキ」。2016年より受益者負担の塾の事業を株式会社に移管する一方、公益事業として子どもたちへの支援と支援者の拡大を図るための活動に注力している。その第一歩としてAJOSCの助成を受け取り組んだのが、不登校や中退に関する情報を一元化して発信するポータルサイトの開設である。同団体が7年にわたる活動を通じて蓄積してきた支援のノウハウや役立つ情報を、全国にいる悩める子どもたちや保護者、支援者において不安を感じている人

ちに広く届けるのが目的だ。不登校や中退支援に対する社会的要請の高まりの背景と情報発信の役割について、同法人理事長の安田祐輔さん、職員の田口俊明さんは次のように話す。

「現在5校ある塾では300人が学び、その8割近くが不登校や引きこもりの生徒です。さらに全国から当事者や保護者の方から月に100件近くの相談が寄せられています。みなさん、不安の中で具体的な情報をすぐ求めています。こうした要請に応えるためにも、多くの人がスマートフォンで情報を得る今こそ、web上できちんと有益な情報を届ける仕組みを構築する必要があると思いました。それがポータルサイトを開設した理由です」

#### 支援事例に基づくケーススタディや当事者や経験者の生の声を届ける

サイト名は「不登校・中退ナビ」。キーワード検索でヒットしやすいようにストレートなタイトルを付けたという。サイトには、これまでの支援活動で積み重ねてきた1,000件以上の事例に基づくケーススタディや、精神科医などの専門家によるアドバイスを掲載するほか、塾に通う不登校・中退の当事者や経験者などの生の声もキャッチアップしていく予定だ。キズキでは、設立者の安田さんをはじめ、過去に不登校や引きこもりなどを経験して現在塾の講師として活躍している人も多く、「不登校や引きこもりになってどう生きていったらよいか悩んでいる人に対しては、漠然とした情報ではなく、自分の進路を見つけ出ししていくための具体的なロールモデルを示すことが大事」という考えのもと記事作りを

進めている。加えて、煽るような内容や表現を避け、読んだ人の気持ちになるような記事を心掛けていくという。

「サイト内に着々と記事をアップしているところですが、記事の内容にはこだわっていきたくです。今後は記事がきちんと読まれているかをデータで分析していく必要があると考えています。より多くの人に有益で鮮度の高い情報を届けるためにも、ただ発信するだけでなく、読者の反応に対応して修正していくプロセスを踏んでいきたい」と安田さん、田口さん。

当事者である子どもたちや保護者はもちろん、彼らの支援に関わっている学校の教員やスクールカウンセラー、地域社会の人々などに広く活用してもらえるようなサイトを目指している。



不登校や中退などに関する情報を発信する「不登校・中退ナビ」



同じような経験をした講師のコラムやインタビューなどを掲載

助成団体: 特定非営利活動法人 キズキ

<https://kizuki.or.jp>



#### 何度でもやり直せる社会を目指して活動しています

不登校や引きこもりが社会問題となる中、何度でもやり直せる社会をつくるという理念の下に活動しています。困難を抱えた子どもたちの支援を強化し、支援者を増やすために、webの活用は最も効果的な方法だと考えています。成果が見えづらい事業ではありますが、ご理解をいただけてとても感謝しています。

NPO法人 キズキ  
理事長 安田祐輔さん(左) 理事 田口俊明さん(右)